九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州大学附属図書館の移転計画 : 伊都キャンパス第Ⅰ期開校までの検討経緯を振り返る

昌子, 喜信
島根大学附属図書館図書情報サービスグループ

https://doi.org/10.15017/3266

出版情報：九州大学附属図書館研究開発室年報. 2005/2006, pp.44-48, 2006-06-01. 九州大学附属図書館研究開発室
バージョン：
権利関係：

報　告

九州大学附属図書館の移転計画
伊都キャンパス第Ⅰ期開校までの検討経緯を振り返る

昌子　喜信*

〈概　要〉

2005（平成17）年10月、九州大学伊都キャンパスに理系図書館が開館した。伊都キャンパスの最初の地区基本設計である工学系地区基本設計が開始され、附属図書館の移転計画が具体的に動き始めた2001（平成13）年から、伊都キャンパスに理系図書館が開館する2005（平成15）年までの検討体制及び検討内容を記録し、今後の移転計画の参考とする。

1　はじめに

2005（平成17）年10月、九州大学の伊都キャンパスが開校し、この新キャンパスに理系図書館（第Ⅰ期工事）が開館した。現在の移転スケジュールでは、次頁の表のようにこれから15年間の予定で、キャンパスの統合移転を行う計画である。九州大学附属図書館は、大学の移転計画に合わせて伊都キャンパスに理系図書館及び中央（文系）図書館（仮称）の２館を整備する計画である。

理系図書館が開館し、サービスを開始した現時点において、現在までの検討体制及び検討内容等を振り返り、今後の新図書館計画及び移転計画のための記録としたい。

ここでは、『九州大学新キャンパス・マスタープラン2001』[1] が策定され、最初の地区基本設計である工学系地区基本設計 [2] が開始された2001（平成13）年度以降を対象とする。記述を進めるにあたっての便宜上、全体を次のようにⅠ期～Ⅲ期の３つの時期に区分する。

第Ⅰ期（2001〈平成13〉年４月～2003〈平成15〉年６月）

工学系地区基本設計が開始され、工学系地区に設置される理系図書館（当時は仮称）の計画が具体的に動き始めた2001（平成13）年４月から、理系図書館が着工する2003（平成15）年6月まで。

第Ⅱ期（2003〈平成15〉年７月～2005〈平成17〉年３月）

理系図書館（第Ⅰ期工事）が着工した2003（平成15）年７月から、移転が開始される前の2005年３月まで。

第Ⅲ期（2005〈平成17〉年４月～2005〈平成17〉年10月）

理系図書館への移転が動き始めた2005（平成17）年４月から、理系図書館が開館する2005（平成17）年10月まで。

2　検討体制

はじめに、これまでの計画を推進してきた検討体制を概観すると次のとおりである。

新図書館の施設計画やサービス計画、移転計画など様々なレベルの内容を幅広く検討する必要があったことから、検討体制は重層的な体制をとっている。附属図書館商議委員会の下に専門部会（中央〈文系〉図書館検討専門部会及び理系図書館検討専門部会）を設け、施設計画やサービス計画の策定を行う体制をとる一方で、図書館職員の検討組織として、全学の図書館職員の横断的な組織であるワーキンググループ（新図書館検討ワー

*しょうじ　よしのぶ　島根大学附属図書館図書情報サービスグループ（島根県松江市西川津町1060）E-mail: shoji@lib.shimane-u.ac.jp

表　九州大学移転スケジュール

時　期	第Ⅰステージ	第Ⅱステージ	第Ⅲステージ
	2005(H17)年度 ～2007(H19)年度	2008(H20)年度 ～2011(H23)年度	2012(H.24)年度 ～2019(H.31)年度
伊都キャンパスへの移転	工学系Ⅰ,Ⅱ 理系図書館Ⅰ 【約4.3千人】	(基幹整備及び新手法による整備)	理学系（2014〈H26〉），情報基盤センター（2015〈H27〉） 理系図書館Ⅱ（2016〈H28〉）， 中央図書館（2017〈H29〉） 文系（2017・2018〈H29・H30〉），全学教育（2017〈H29〉） 農学系・その他（2019〈H31〉） 【約11.3千人】
六本松から箱崎への移転		全学教育 比較社会文化・言語文化 【約4.1千人】	

キンググループ。以下WGという。）を設置した。

WGは、施設計画やサービス計画、移転計画などの原案の検討を行うとともに、計画の実施レベルでの細部の計画（例えば、移転の詳細な計画や資料移転に伴うデータのメンテナンス作業マニュアル等）の作成を行った。これらの作業は、WGの下に設けた専門班と呼ばれるタスクフォース組織が担当した。

また、移転に関する実務を担当する組織として、中央図書館の職員を中心にして全学の図書館職員を加えた新図書館推進室を設置した。これは、上記の附属図書館商議委員会の専門部会及びワーキンググループが策定した計画を実施する主体という位置づけである。理系図書館の設計時における設計者との協議や、家具・設備の導入、資料移転の実施、資料移転に伴うデータの整備等を行った。これらの実際の作業は、新図書館推進室にチームを設けて対応した。

一見複雑に見える体制であるが、計画の進行段階に応じて、ワーキンググループの専門班と新図書館推進室をその時々に機動的に活動させながら、検討及び作業を進めてきたものである。これらの組織は、附属図書館商議委員会の専門部会の下で、大学の新キャンパス計画推進室、施設部及び統合移転推進室等と連携をとりながら検討及び作業を進めた。また、附属図書館研究開発室の室員（建築学及び芸術工学専攻の教員）から、直接的に指導、助言を得られる体制をとるようにしたことも、計画の推進の上で大きな力となっている。

以上のような検討体制は、最初から作り上げたものではなく、検討を進めつつ段階的に整備したものである。現在の検討体制は、次の図のとおりである。

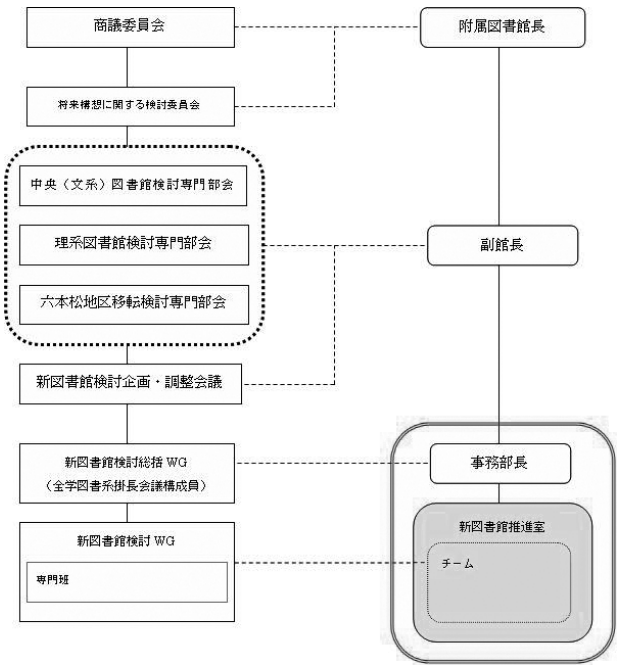

図　検討組織図

3　各期における検討事項と成果

（1）第Ⅰ期（2001〈平成13〉年４月～2003〈平成15〉年６月）

第Ⅰ期は、大学の新キャンパス計画において、工学系地区基本設計と移転シミュレーションが行われた時期であり、附属図書館では、これらの動きに対応して検討を進めた。この時期は、附属図書館の移転計画や将来構想の策定など、移転を実施するにあたっての基盤となる計画を策定した時期である。また、補正予算により理系図書館の建設が認められたことにより、理系図書館の基本設計が行われた。

○工学系地区基本設計

2001（平成13）年４月から、大学事務局において工学系地区基本設計のための作業が開始された[3]。地区基本設計は、建物の基本設計・実施設計に先立って行われるものであり、『九州大学新キャンパス・マスタープラン2001』[4] に基づき、建物の配置計画及び地区内の各建物の概略設計を行うものである。附属図書館では、この工学系地区基本設計に対応して、WGにおいて検討を進め、附属図書館商議委員会の承認を得た。

工学系地区基本設計にあたって、次のとおり理系図書館を計画するための諸条件の整理を行っている。即ち、サービス対象利用者数や蔵書冊数などの基礎的な数値、必要とする諸室及びその面積、諸室間の機能関連、増築の考え方と蔵書冊数の増加見込みなどである。さらに、中央図書館との機能分担、情報基盤センターと隣接することによる情報基盤センターと共有する室について、併設する生活支援サービス施設についての考え方などを整理した。また、附属図書館研究開発室の山野善郎室員（人間環境学研究院助教授）の指導により、新図書館に必要とされる建築性能を取りまとめて、地区基本設計の際の要望として提出した[5]。

なお、地区基本設計に先立って、新図書館の資料収蔵計画を進めるために、移転対象となるすべての部局に対して、所蔵資料の数量調査を行っている[6]。

○移転シミュレーション

2002（平成14）年1月から、大学事務局において、移転シミュレーションが開始された[7]。これは、2005（平成17）年度に第Ⅰ期開校を実現するために詳細な検証を行い、移転に伴う支障を排除するための方策を検討するのが目的である。移転対象となるすべての部局や事務局等から詳細なデータを集め、移転順序や方法についてのシミュレーションが行われた。

附属図書館では、移転シミュレーションに対応して、WGに設置したサブワーキンググループ（移転対応検討SWG）において検討を進め、『九州大学附属図書館移転計画』[8] を取りまとめた。これは、附属図書館の移転計画の枠組みを示したものであり、移転年次ごとに、所蔵資料やサービス対象利用者の移動数量、移転時における業務運用体制及び移転までに解決すべき課題などを整理したものである。

この移転計画の検討を進めるにあたって、移転期間中における業務運用体制や、移転後における事務組織統合を検討するための素材を得るために、移転対象となるすべての館・室に対して業務分析調査を行っている[9]。

○附属図書館将来構想

移転計画の検討を進めると同時に、キャンパス移転や国立大学法人化などの課題に対応した附属図書館の将来像を示すために、将来構想の検討を行った。この検討は、WGに設置したサブワーキンググループ（将来構想検討SWG）において検討を進め、附属図書館商議委員会の承認を得た[10]。

また、将来構想の検討を進めつつ、新図書館の業務運用についての検討も平行して進めた（運用検討SWGによる）。この運用計画は、第Ⅱ期においても引き続き検討を進め、『新図書館におけるサービス計画2005』[11] として取りまとめを行った。

○理系図書館基本設計

平成14年度の補正予算により、理系図書館の建設が認められ、2003（平成15）年１月から基本設計が開始された。補正予算で建設が認められたのは、工学系部局の移転に対応する規模として、理系図書館の完成時の半分の規模である。新図書館推進室は設計担当者との協議を進めつつ、『理系図書館基本計画』[12] を取りまとめた。この基本計画は、理系図書館のコンセプト、スペース構成、資料収蔵計画、諸室計画等を整理したものであり、理系図書館の基本設計・実施設計にあたっ

て参照すべきものとして設計担当者に提示したものである。

（2）第Ⅱ期（2003〈平成15〉年７月～2005〈平成17〉年３月）

第Ⅱ期は、理系図書館が着工し、竣工するまでの間であり、2005（平成17）年10月の理系図書館の開館が具体的に目の前に見えてきたことから、移転に伴う様々な課題の検討や、理系図書館の運用を開始するにあたっての具体的な計画の策定を行った時期である。

○移転に伴う諸課題の検討

移転に伴う課題として、物理的な資料の移動に伴う所在情報の管理方法をどのようにするか、分散して所蔵していた図書資料を移転統合することによって発生する重複資料をどのように事前に調整するか、などがあげられており[13]、これらの課題を解決するために、WGに設置した専門班で検討を行った（所在管理専門班、重複調整専門班）。それぞれ、所在管理方法や重複調整方法をまとめた作業マニュアルを作成した[14,15]。

この他、移転対象となる工学系部局が所蔵する図書資料の具体的な移動計画の検討（資料移転専門班による）や、理系図書館に導入予定の設備の検討（設備検討専門班による）等を行った。

専門班は、課題に対応して柔軟に組織し、活動できるようにしたタスクフォースであり、移転を目前に控えて様々な課題を平行して検討する必要があったこの段階においては、タスクごとに設けた専門班を機動的に編成し、活動できたことは効果的だったと考えている。

○理系図書館運用のための諸計画の検討

WGでは、伊都キャンパスにおける新図書館（理系図書館及び中央〈文系〉図書館）のサービスについて検討し、『新図書館におけるサービス計画2005』[16]を取りまとめたところだが、理系図書館の運用を開始するにあたって、さらに具体的な計画を策定する必要があった。即ち、理系図書館の蔵書構築や資料配架計画、工学系部局の移転期間中を含めた理系図書館開館当初におけるサービス・業務運用の計画である。これらの計画は、専門班（蔵書構築・資料配架計画検討専門班及びサービス・業務運用計画検討専門班）によって検討され、それぞれ、『理系図書館資料配架計画2005』[17]、『理系図書館サービス・業務運用計画2005』[18]として取りまとめを行った。

また、理系図書館の家具等の設備の検討を進め、仕様策定を行った（設備検討専門班）。

（3）第Ⅲ期（2005〈平成17〉年４月～2005〈平成17〉年10月）

第Ⅲ期は、これまでに策定した諸計画を実施に移した段階である。計画に従って設備の導入や移転が実施され、理系図書館が開館しサービスを開始した時期である。この時期は、新図書館推進室にチームを設置して、実際の作業にあった。

○設備の導入及び移転の実施

家具等の設備は、引き続き仕様の検討と策定を進め、導入作業を行った（設備導入チーム）。また、開館に向けての運用の細部の検討と実際の準備を行った（運用検討＆準備チーム）。

工学系部局が所蔵する図書資料の移転作業は、2005（平成17）年４月に発足した理系図書館準備室で実施したが、中央図書館及び分館から移設する図書資料についての移転作業はチームにおいて対応した（中央図書館移転作業チーム）。また、資料の移転に伴う所在情報等のデータの整備作業も平行して行った（移転後作業準備＆データ整備チーム）。これらの諸作業は、理系図書館準備室との連携のもとに進められた。

４　おわりに

九州大学の伊都キャンパスに、理系図書館が開館するまでの附属図書館内における検討体制と、検討の経緯をたどった。工学系部局の移転完了後間もなく、六本松地区の移転が開始される。最終的に移転が完了するまでに、理系図書館の第Ⅱ期工事、中央（文系）図書館の建設を大きなイベントとして、さらに年次的に部局の移転が進行する。附属図書館の移転事業はやっと緒についたばかりである。今後、移転計画を進めるにあたって、全学的な合意を得やすく、かつ機動的に活動できるよう検討組織を不断に見直しながら検討を進めていく必要がある。

参考文献

［1］九州大学. 九州大学　新キャンパス・マスタープラン2001：21世紀を活き続けるキャンパスの創造.2001.3.（オンライン), 入手先〈http://www.suisin.kyushu-u.ac.jp/archive/plan/master/index.html〉,（参照2006-03-31）.

［2］九州大学. 九州大学工学系地区基本設計計画説明書. 2002.6.（オンライン), 入手先〈http://www.suisin.kyushu-u.ac.jp/archive/plan/design/engineering/index.html〉,（参照2006-03-31）.

［3］前掲［2］

［4］前掲［1］

［5］新図書館検討ワーキンググループ（研究開発室室員 山野善郎〈人間環境学研究院助教授〉監修）. 理系図書館における建築性能等への要望. 2001.10.15

［6］ 新図書館検討ワーキンググループ.　新図書館における資料収蔵計画のための所蔵資料調査.　2001.9

［7］九州大学.　移転シミュレーション検討プロジェクト報告. 2002.

［8］九州大学附属図書館. 九州大学附属図書館移転計画. 2003.7.（オンライン), 入手先〈http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/aboutus/future/iten.pdf〉,（参照2006-3-31）.

［9］新図書館検討ワーキンググループ.　統合移転に伴う附属図書館事務組織一元化を検討するための業務分析調査.　2002.9

［10］九州大学附属図書館. 九州大学附属図書館将来構想. 2003.7（オンライン), 入手先〈http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/aboutus/future/shorai.pdf〉,（参照2006-3-31）.

［11］九州大学附属図書館.　新図書館におけるサービス計画2005. 2005.6（オンライン), 入手先〈http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/aboutus/future/service_plan2005.pdf〉,（参照2006-3-31）.

［12］九州大学附属図書館. 理系図書館基本計画. 2003.7.（オンライン), 入手先〈http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/aboutus/future/s-lib_plan.pdf〉（参照2006-3-31）.

［13］前掲［8］

［14］新図書館検討ワーキンググループ.　移転に伴う所在情報管理マニュアル（理系図書館編）. 2004.3.

［15］新図書館検討ワーキンググループ.　重複調整マニュアル. 2003.10

［16］前掲［11］

［17］九州大学附属図書館. 理系図書館資料配架計画2005. 2005. 6.（オンライン), 入手先〈http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/aboutus/future/rikei_haika2005.pdf〉（参照2006-3-31）.

［18］九州大学附属図書館. 理系図書館サービス・業務運用計画2005. 2005.6.（オンライン), 入手先〈http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/aboutus/future/rikei_service2005.pdf〉（参照2006-3-31）.